月刊 まち・コミ 2010年6・7月号

● インフォメーション ●http://park15.wakwak.com/~m-comi/

● 今月の注目記事 ● Ｐ１～Ｐ３　台湾　古民家移築現場　滞在記

台湾 古民家移築現場 滞在記

２００９年夏、台湾の古民家移築建築現場で、日本の大工や左官職人がいる３ヶ月間、まち・コミ事務局スタッフも台湾に滞在しました。

異国の地、台湾での建築では、神戸市長田区御蔵地区での古民家移築集会所づくりの時と同様、新しい考えや文化や人と接します。まち・コミはこれまでの１５年間、様々なまちづくりに関わらせていただき「環境が変化する中で起こる様々な出来事を、参加者がうまく受け止めるためには、寄り添う存在も必要だ」と確信しており、出来る限り、台湾の現場に居させていただきました。

今号では、２００９年度建設滞在記を、簡単ではありますがご紹介いたします。

まち・コミはこれまでも、台日交流古民家移築事業の事務局として、２００４年の解体から５年間関わっています。具体的には、台湾側のパートナーとの打ち合わせ、台湾でのネットワークづくり、土地探しと交渉等をしてきました。そして、その経緯を「月刊まち・コミ」やまち・コミブログでの発信等をしてきました。

▲左から２番目が宮定

日本側関係者（大工、左官）との打ち合わせ、航空券や現場までの交通手段の手配、記録づくり、上棟式やイベントの準備、台湾側への提出資料の作成、メールやブログでの募金者や応援団への報告、日本から参加する学生の航空券の手配や現場のコーディネート、作業従事者の生活環境の整備、マスコミの対応、現場見学者の対応、作業スケジュールの調整、関係者の懇談の場づくり（台湾学生と職人さん）等を行いました。

台湾側のパートナーは台湾側の事務局も兼ねており、多くの関係者と連絡をとっています。その台湾側パートナーに日本人側も一人一人が頼ると大変なので、まち・コミが窓口となり、日本人側の意見のまとめも行いました。

（※建築作業工程については、月刊まち・コミ2009年9月号をご参照下さい。）

その中での目標は、建築作業を安全に進めるための生活環境や、現場環境の整備はもちろんのこと、参加者のコミュニケーションを円滑にすることです。そのために、台日メンバーの紹介、経緯の補足説明等を行い、そして、各自が役割を見つけられるような場や雰囲気づくりをすることでした。

事例紹介

１．大工道具選び

古民家移築工事を受注した台湾の工務店は、当然ながら、日本の古民家再建と施工をしたことがありません。よって、道具一つを揃えるのも大変でした。日本の職人さんも、台湾にどんな道具があるか見当がつきません。よって、スーツケースに入る大工道具は持っていきましたが限界があります。資材は確実に発注が必要です。例えば、日本では「〇〇の釘」と言えば、木造建築の工務店が考えて揃えてくれます。しかし今回は「何ミリ釘で素材は〇〇で、〇〇のために使用して…。」と説明をしなければなりません。その上、類似品があるとは限りませんので、代替え品を探すことになります。そうなると、もっと詳しく使用方法や耐久性等を説明しないといけません。これが大変なのと、道具が揃わないと、どんどん作業開始までの時間が延びていきます。訪台当初は大工さんも、「なんでうまくいかないんや」と思われていたようです。そこで大工仕事は忙しいですが、出来る限り打ち合わせにも参加していただくことで、日本の大工さんは台湾側が精一杯探してくれていることがわかり、欲しいものが手に入るまで２，３度はやりとりをしないといけないことを理解されて、日本で工事する時よりも発注を早くする等、工夫をしてくださるようになりました。

２．左官工事

左官の渋谷親方は、２回訪台してくださりました。一度目は7 月。「良い壁土を作るために、できるだけ早く藁と土を混ぜて寝かせるのがいい」と、土づくりのために訪台してくださいました。5 日間の訪台でしたが、なかなか土も藁も揃いませんでした。それでも渋谷親方は、黙々と建築現場にある木ぎれやコンパネを利用して、壁土を塗る時用の小手板を作っていました。その姿に「早く混ぜなければいけない」と台湾の人たちが感じたのか、帰国前の最終日に藁と土が来ました。しかし、藁を切る道具が揃っていませんでした。そこで渋谷親方は包丁で藁を切り始めました。そうすると、早くしないといけないのが行動で伝わったのか、職人さんやボランティアの学生も、建築工事の休憩時間を使って藁きりを手伝ってくれるようになりました。その後はまち・コミで３５ 日間毎日、少しでも混ぜていい土を作るという意志を継ぎ、学生と共に泥に足を入れ、藁と水を加える作業を繰り返しました。

２回目の訪台の時は壁土塗りです。台湾の職人さんと共に、台湾にある材料を確かめながら、塗り方の指導もしました。

最終日には、台湾の職人さんがお疲れさま会を開いてくれました。

文化の違いで、台日の職人さん双方に、いつも通りに作業が進まないストレスはたまります。行動する毎にその文化の違いの壁に当たりますが、お互いが精一杯、古民家建築の目標に向かい、壁を超えていく中で、一体感が高まりました。それは、職人さんだけでなく、参加した学生等にとっても同じでした。

事務局も共に、台湾の建築現場へ常駐でき、多くの事を学び得ることができました。支えて頂いた、まち・コミの応援団、関係者の皆様に感謝いたします。

※滞在記の詳細は、ブログに掲載しています。
（http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-category-2.html）

●古民家の名称
一滴水紀年館

●場所
台湾台北縣淡水鎮和平記念公園予定地内
※淡水ゴルフ場クラブハウスの近く

●行き方
台北捷運（ＭＲＴ）淡水駅（台北駅より約50 分）より、タクシーで10 分「滬尾砲台」と伝えてください。一般道から、砲台に入るエントランスを通り、２００ｍ ほど上がったところを右に入ってまっすぐです。
※桃園国際空港からタクシーでの所要時間は約１ 時間。

みくらエッセイ

平成22年前期 震災体験学習に来た中学生からのお手紙

４月から６月までで、16の小中学校が震災体験学習にやってきました。まち コミには語り部さんへのお礼のお手紙がたくさん届いております。その一部を紹介します。

語り部さんたちのお話を聞いて、もう二度とこんな地震はきてほしくないという気持ちが伝わりました。またぼくは、耐震補強、道を広げるなど環境に配慮し、地震に負けない町づくりをしていくことが大切だと思いました。また、できるならお話を聞きたいです。これからも、阪神 淡路大震災について深く考えることができるような活動を、お体に気をつけながらがんばってください。(志鷹くん)

語り部さんのお話を聞いたり、長田地区を歩いたりして、震災の恐ろしさや人々が協力することの大切さ、常に備えておくことの大切さなどを学ぶことができました。また、この震災は私が調べ、知っていた事よりはるかに大きなつめ跡を残したのだという事を痛感しました。これは私が知ったつもりになっていただけで、事実を詳しく知らなかったからかもしれません。

神戸の町は復興されてつめ跡も少なくなりつつあるようです。しかし、一つの命も無駄にすることがないよう、今回学んだ事をこれからに生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。(釈永さん)

私は地震の揺れ方は横に揺れるものだと思っていたけれど、阪神 淡路大震災の時はまず、上下にドーンという揺れ方だったと知った時は驚きました。長田区では多くの方が亡くなり、助けられなかったという後悔の思いがあるということは、とてもつらいことだと思いました。人との友好関係は大切なんだと思い知らされました。災害が起こってからの町の復興には多くの方が一つになって頑張ってきたからだと思いました。だから、これからの生活には教えていただいたことを胸に、頑張っていこうと思います。そして、もっと人とのつながりを大切にしていきます。(川上さん)

最初は地震って怖いな・・・としか思っていなかったけど、神戸研修を終えて、震災から学べることもあるんだとわかりました。震災はとても怖いものだけど、人のやさしさ、命の大切さ、協力することの大切さを感じることができました。焼けた電柱や、半分が焼けてしまったクスノキは、震災の恐ろしさを教えてくれました。クスノキは、半分が焼けて枝が無くなってしまったけれど、ほかの枝が横に伸びてきているのを見ると、とても勇気が出てきました。(松井さん)

私たちは前から震災学習をしていました。でも、みなさんに教えていただいたことは、今までの学習にないものがありました。それは、実際に地震を体験した人達に話をしていただいたり、質問に答えていただいたりしたことです。自分の体験したことを入れながら、スライドを使ってわかりやすく説明してくださったり、私たちの質問にも的確に答えてくださいました。スライドではその当時の実際の写真やグラフなどがあって分かりやすかったです。

まち歩きでは、実際にまちを歩いて、地震の被害を受けた木や電柱を実際に見ることができて良かったです。被害を受けた木は、15年たった今でも触ったら炭が手につきビックリしました。30年という長い時を越えて元に戻るんだと思うと驚きました。電柱は地震で発生した火事の火の手が回ってきて、焼けただれていました。その電柱を残している理由の一つに「地震で家を失った人々が、自分の家があった場所が分かるように、目印になる」とありました。私はなるほどと思いました。そしてもう一つなるほどと思ったことがあります。それは仮設トイレです。地震の時、一番困ったのがトイレと聞きました。まちづくりの中で色んな工夫がなされているんだなと思いました。たくさんのことを学べました。ありがとうございました。(小森さん)

まち・コミnews

早稲田大学浦野正樹教授が東京学芸大学附属高等学校の生徒へ震災体験学習の事前講演

震災体験学習の下見に来られた東京学芸大学附属高等学校の先生から、「実際に神戸を訪れる前に、事前に学校で学習をしたい」ということで、講演の依頼がありました。いつもは、御蔵から語り部さんが行きますが、今回は高等学校の先生からの要望もあり、まち・コミの運営委員もしていただいている浦野正樹教授（早稲田大学文化構想学部）が高等学校へ出向き、事前講演をしてくださいました。

講演後にも学習を重ね、研究テーマを決め、秋には希望者が神戸を訪れることになっています。浦野先生の講演の感想文を拝見すると、とても熱心な生徒さん達で頼もしく感じています。生徒さん達に会えるのを、今から楽しみにしています。

大地のつぶやき

～病は気からと言うが…～

若い頃から還暦を迎える迄殆ど医者いらずで、天引きされる健保料の高いのに不信感を持っていた。五十才を越え歯医者に一回／四年行く位で丈夫に生んで呉れた両親に感謝していた。歯痛もそれ迄は三日も辛抱すれば痛みに慣れるのか感じなくなり、治った気になっていた。風邪も殆ど引いたことがなく、風邪気味かなと思えば八時間以上睡眠を摂れば翌日はケロリとしていたものである。よって私の目からは風邪で仕事を休むなんて論外であった。若い人が医者に注射を打って貰いに行くなど考えられなかった。「風邪など日頃の不摂生が祟っている。睡眠を十二分にとれ。休むなんてなまくら以外の何物でもない！」と広言を吐いていた。腹痛なんぞは食事を一食二食抜けばすぐに治った。長い間、健康保険料の高いのが理解出来ずにいた。

それがどうだ。六十才を境に風邪を引いても二週間、三週間と長引かせる様になった。震災時五十五才で走り回り、五年目の還暦を前に左顔面麻痺をやった。ベルツ氏病だ。脳血管障害かと思い、その方面の専門病院に行って外科的治療を受けステロイド注射を短期間受け、同時にリハビリにも通った。当初四ヶ月と言われたが二ヶ月足らずでリハビリから脱出した。その間整体がいいと聞けば整体に通い、水飲み健康法がいいと聞けば水を二（リットル）／日以上毎日飲んだ。家では「アー、エー、イー、ウー」と口をひん曲げて大声を上げていた。ベルツ氏病の次は六十三才頃会議の途中やにわに立ち上がり体操をしだした時に気を失って倒れた。その前日福岡で祖母の葬儀があり、二、三日寝不足が続いたのでその精と思ったが三年後にまた一瞬だが気を失った。精密検査の結果ブルガダ症候群による除細動器埋め込みとなる。その一年後は鼠径ヘルニアの手術をする。この一年に二度も無灯火の自転車を引っかけそうになった。白内障の手術が目前に迫っている。高齢者の医療費が嵩む見本になって気が滅入っている。

株式会社兵庫商会　田中保三

まち・コミ活動報告　5/1～6/30

5/2・9・16 出石市民農園
5/10　震災学習(富山市・大泉中)
5/11　震災学習(富山・北部中)
5/11・19　記録誌事務局打合せ
5/14　震災学習(笠岡・笠岡西中)
5/14　WEBまち・コミ会議
5/15 震災学習(秦野・西中学校)
5/16　震災学習(高知、大津小)
5/17　震災学習(岡山・東山中)
5/19　震災学習(箱根・箱根中)
5/21　震災学習(高知・旭小)
5/21　簡宏達先生(台湾の建築家)来訪
5/21　講演（東京学芸大学附属高等学校にて神戸訪問事前講演、早稲田大学浦野先生）
5/25　研修受入(軽井沢民生委員)
5/25　記録誌事務局打合せ
5/26　震災学習(防府・大道中)
5/29　震災学習(秦野・渋沢中)
6/2　震災学習(多治見・平和中)
6/3　震災学習(可児・蘇南中)
6/4　震災学習(各務原・緑陽中)
6/9　震災学習(いの・神谷中)
6/10　遠藤勝裕氏来訪
6/12　講演（連合愛知ボランティアリーダーズスクール、田中）
6/12　震災学習(江戸川・小松川第二中)
6/12・13　出石市民農園
6/14　記録誌編集委員会
6/21　講演（神戸松蔭大学特別講義、宮定）
6/21　まち・コミ運営委員会
6/22　WEBまち・コミ会議
6/22　兵庫高校生徒による出石市民農園ヒアリング
6/26　広島大学田中貴宏ゼミ来訪

ご支援、ありがとうございます。　5/1～6/30

●賛助会員(新規・継続)●
田中貴宏(広島県)　濱岡歳生(山口県)　小森宰平(兵庫県)　高見澤邦郎(東京都)　横田尚俊(山口県)
有馬嗣朗(山口県)　川崎茂(大阪府)　河喜多勝(福岡県)　住田功一(大阪府)　秋原孝三(兵庫県)
安藤厚子(高知県)　藤村晴彦(兵庫県)　木村徹(広島県)　小林恵美子(京都府)　松宮勝彦(愛知県)
山本和代(大阪府)　中西幸子(兵庫県)　橋本敏子(千葉県)　六ノ坪合資会社(兵庫県)　末正盛隆(兵庫県)
吉田昌(大阪府)　今田忠(大阪府)
●寄付●　石川義夫(東京都)　石原商会(兵庫県)
●協力●社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都)　株式会社兵庫商会(兵庫県)　【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集＆更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいています。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は１年更新とさせていただいています。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

年会費
個人・法人　年間５０００円
学生　年間３０００円
郵便振替口座番号
００９５０－３－４２７８８
口座名称
「まち・コミュニケーション事務局」

会員特典

◆本誌「月刊まち・コミ」の送付。
◆まち・コミュニケーションに関する、Ｅメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

■編集後記　「WEBまち・コミ」のリニューアル作業が一段落しました。活動の紹介を充実させ、データの更新をしています。ぜひご覧くださいませ。(戸)

2010年7月1日発行
編集／発行　まち・コミュニケーション
定価　１００円
御蔵事務所　〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-5
TEL　078-578-1100／FAX　078-576-7961
東京事務所　〒162-0052
東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学部浦野研究室内
神奈川事務所　〒214-8580
神奈川県川崎市多摩区東三田２丁目1-1
専修大学文学部大矢根研究室内
e-mail　m-comi@bj.wakwak.com
URL　http://park15.wakwak.com/~m-comi/